

# 子供のうた

(学年は投稿時)

”  
いいことさがしで、

自己肯定感もアップ!

いいことさがし

さいきんうれしいことがある

しゆく題のすみっこに

お母さんが

毎日わたしのいいところを

かいてくれる

今日は何かな

ドキドキしながら

ページをめくる

わたしもさがそう

お母さんのいいところ

(鹿児島市西伊敷小3年)

永田 じゅり

## 天声人語

先週、取材で訪ねた岩手県は稲刈りの盛期だった。大槌町の菊池妙さん(79)宅には一足先に新米が届いた。実はこのお米、育てられたのは750<sup>+</sup>離れた大阪。ルーツは菊池さんが大震災の年の秋に見つけた3株のイネだ▼津波で自宅を失った菊池さんは、玄関だった場所で作せた稲穂を見つけた。翌春、地元有志らが433粒の種もみから苗を育てた。「大槌復興米」と呼ばれるようになった▼自治体ぐるみで支援してきた大阪府富田林市のボランティアたちが震災の3年後、1<sup>+</sup>だけ譲り受けた。JAとともに市内の水田で栽培し、翌年からは市内すべての小学5年生が一人1個のバケツで育て始める。そのころ大阪に在勤していた筆者は、子どもたちの奮闘に胸が温かくなった▼コロナ禍の今年、バケツ米は中止に。それでも菊池さんのもとには田を手伝った小学生から「観察日記」が届く。6月7日ひとつひとつ心をこめて植えました。7月5日コロナで外に出れないので嫌だったけど、苗はすくすくのびていました。8月30日かかしががんばって守ってくれたので、米もがんばってくれています▼菊池さんは「本当に幸せなお米さん」と言う。どこからか流れ着いた種もみが根を張り、人と人との縁で育まれた。「人の優しさを教わった気がする。この年になって、ね」▼大阪の田んぼで取材のたびに耳にしたのは、「震災のこと、絶対に忘れへんから」という決意だ。風化にあらがう奇跡の米はしっかりと根付いた。